

千葉大学医学部生の学修成果（アウトカム）2013年度版（現行）

I. 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉大学医学部学生は、卒業時に患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するための態度、倫理感を有して行動できる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたり向上を図ることができる。

1. 倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
2. 法的責任・規範を遵守する。
3. 他者の尊厳を尊重し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。
4. 患者とその関係者の心理・社会的要因と異文化、社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。
5. 常に自己を評価・管理し、自分の知識、技能、行動に責任を持つことができる。
6. 専門職連携を実践できる。
7. 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。
8. 同僚、後輩に対する指導、助言ができる。

II. コミュニケーション

千葉大学医学部学生は、卒業時に患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するための態度、倫理感を有して行動できる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたり向上を図ることができる。

1. 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実践できる。
2. 患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報収集・伝達、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。
3. 英語により、医学・医療における情報を入手し発信できる。

III. 医学・医療および関連領域の知識と応用

千葉大学医学部学生は、卒業時に医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し応用できる。

1. 正常な構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理、行動
4. 病因、構造と機能の異常
5. 診断、治療
6. 疫学、予防
7. 保健・医療・福祉制度
8. 医療経済
9. 医療安全

IV. 診療の実践

千葉大学医学部学生は、卒業時に患者に対して思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な診療を実施できる。

1. 患者の主要な病歴を正確に聴取できる。
2. 成人及び小児の身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。
3. 臨床推論により疾患を診断できる。
4. 頻度の高い疾患の診断と治療に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。
5. 頻度の高い疾患の適切な治療計画を立てられる。
6. 医療文書を適切に作成し、プレゼンテーションできる。
7. Evidence-based medicine (EBM) を活用し、安全な医療を実施できる。
8. 病状説明・患者教育に参加できる。
9. 診断・治療・全身管理に参加できる。

V. 社会と医療

千葉大学医学部学生は、卒業時に保健・医療・福祉の資源を把握・活用し、必要に応じてその改善に努めることができる。

1. 保健・医療・福祉に必要な人材・施設を理解し、それらとの連携ができる。
2. 健康・福祉に関する問題を評価でき、疾病予防・健康増進の活動に参加できる。
3. 地域医療に参加しプライマリケアを実践できる。
4. 医療の評価・検証とそれに基づく改善に努めることができる。

VI. 科学的探究

千葉大学医学部学生は、卒業時に基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい情報を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。
2. 科学的研究で明らかになった新しい知見・高度先進医療を説明できる。
3. 未知・未解決の臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる。

千葉大学医学部生の学修成果（アウトカム）2022年度版（改訂案）

千葉大学医学部の学生は、つねに、より高きものをめざして、千葉大学医学部の使命（ミッション）および千葉医学の理念に基づき、卒業時に以下のコンピテンシーを達成します。

I. 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉大学医学部学生は、卒業時に責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。

1. 広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。
2. 倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。
3. 法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。
4. 個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。
5. チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォロワーシップを発揮して、多職種連携を実践できる。
6. 常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態（ウェルビーイング）を保つことができる。
7. 他者に対して指導や支援を求めることができ、自らも指導や支援をすることができる。
8. 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。

II. コミュニケーション

千葉大学医学部学生は、卒業時に良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。

1. 個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。
2. 他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。
3. 様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。

III. 医学・医療および関連領域の知識と応用

千葉大学医学部学生は、卒業時に医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。

1. 人体の構造と機能
2. 発達、成長、加齢、死
3. 心理と行動
4. 病因と病態
5. 診断
6. 治療、予防
7. 疫学、統計
8. 保健・医療・福祉制度
9. 医療関連法規
10. 医療経済
11. 情報・科学技術
12. 医学・医療英語

IV. 診療の実践

千葉大学医学部学生は、卒業時に患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。

1. 医療面接を実施できる。
2. 身体診察を実施できる。
3. 基本的臨床手技を実施できる。
4. 感染対策を実施できる。
5. 臨床推論により診断ができる。
6. 検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。
7. 治療計画を提案できる。
8. 医療文書を作成できる。
9. 状況に即したプレゼンテーションができる。
10. Evidence-based medicine (EBM) を実践できる。
11. Shared decision making (SDM) を実践できる。
12. 情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。

V. 社会と医療

千葉大学医学部学生は、卒業時に個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。

1. 健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) の観点から、患者・生活者を理解できる。
2. 保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。
3. 患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。
4. 個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。
5. 個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。
6. 広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。

VI. 科学的探究

千葉大学医学部学生は、卒業時に常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。
2. 新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。
3. 学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。
4. 自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。